

おかげさま



季節のままに こんにちわ

「お取り越し」という言葉を聞いたことがありますか。親鸞聖人の祥月のご命日法要、御正忌報恩講法要

のご縁にお会いするために、自坊の報恩講法要を引き上げて勤め、上洛する。このように勤める法要を、「お取り越し法要」といいます。

お勤めをし、お齋をいただいて、子ども心にもとても楽しみなことでした。なにせ、お齋の席は、子どもも大人と同じく一人前です。とても晴れがましく席に着いたものでした。そうです、ほかの大人の人と同じように、塗りのお膳に塗りの器、食膳の言葉に続き、二の字の御飯をいただき温かいご飯におかわりしていただく、大人の人にお給仕していただくのですから素晴らしい体験でした。



本願寺のお齋は、二膳の折と鞍掛饅頭と抹茶

お齋は、地方、お寺によって内容は変わりますが、お味噌汁やお汁の出汁に至るまでお精進でした。干椎茸戻し汁、昆布、根菜類の野菜の出汁、いろいろと工夫していました。

樹覚寺においては、現在は変わっているが、お平には、煮しめ（人参・牛蒡・手綱の蒟蒻・八頭・蓮根・雁擬き）。お壺には、白和え。向付には、紅白なます。それに、飯椀（白飯）と汁椀（银杏切の大根と豆腐の味噌汁）でした。前日夜のお汁は、のっぺ汁（精進で）。お煮しめの野菜の残りを用以てました。野菜を油いためするとケンチン汁しないとノッぺ汁と言いつけていました。

他のお寺をお参りさせていただくと、お壺にお豆と野菜の煮たものが…「いとこ煮」だそうです。調べてみますと、「いとこ煮」とは、南瓜と小豆の炊き合わせで、冬至を中心

お初お座と懇親会

1月18日午後1時30分

樹覚寺本堂で初お座、引き続き
会館でお楽しみ懇親会

福引き他、お楽しみイッパイ！

に食べられた季節料理のようです。

ちょうど時期的に重なってきますので、お齋の料理



に取り入れられたのでしょ

平成29年の冬至は、12月22日から平成30年1月4日目です。その間、年末年始のさまざまな行事がありますが、大きく二つに分かれます。ひとつは、冬至を中心としての祭り。太陽の復活を願い、喜ぶ祭りです。洋に東西を問わず行われています。西洋では、ユール、イエスの誕生、ミトラ神の再生とが混じり合い、クリスマス

を祝う正月の行事が盛んにおこなわれている。

浄土真宗においては、新春だといっても後に大切な最大に行事が控えているので、いつまでも正月気分では



るので、いつまでも正月気分ではいられない。九日午後二時の初逮夜法要に引き続き、一七カ日の間、御正忌報恩講法要が勤められます。



あけしの郷 明石山樹覚寺
参加をお待ちしています

十二月三十一日

除夜会 除夜の鐘

一月一日

元旦会

一月十三、十五日

北プロウ御正忌参拝回

一月十八日

初お座門信徒懇親会

一月二十一、二十二日

栃木南組門徒研修会

二月一日

晨朝会

二月八日

如目忌法曹

二月十八日

法話会

三月一日

晨朝会

三月十七、二十一日

みんなの作品展

三月十八日

法話会

三月二十一日

彼岸会法曹

三月二十七日

東京教区仏教婦人会連盟
結成六十周年記念大会

四月一日

晨朝会

真実の歩みは安心の歩み 念仏とともに

あけし酔話

お釈迦様の生涯 《伝道》



こんなエピソードが伝えられています。後にお釈迦さまの十大弟子に数えられ、その中でも智慧第一と讃えられた、サーリプッタ(舍利弗)の物語です。

ある朝、サーリプッタは非常に端正な修行僧に出会いました。サーリプッタはその人の後を追い、托鉢の終わるのを見届けて声をかけました。その修行僧は、最近仏弟子になったばかりのアッサジでありました。

サーリプッタ「あなたは、誰を師としているのか」

アッサジ「私は、釈尊を師と仰いでおります」

サーリプッタ「その師は、いかなる教えを説かれるのか」

アッサジ「私はまだ新参者で、師の教えを充分には理解しております」

サーリプッタ「たとえ一端でも、お聞かせ願えまいか」

アッサジ「あらゆるものは、原因によって生ずる。如来はその原因を説かれる。そして、それを滅する方法を説かれる」

サーリプッタ「もし、釈尊の教えがそれっきりであったとしても、それで十分であろう」

と、サーリプッタはそれまで師事していたサンジャヤのもとを去り、お釈迦さまの弟子になったのでした。

(続く)

境内墓地の落ち葉掃き

師走十日、気温は低めながら穏やかな日の中、樹覚寺では、仏教壮年会主催、仏教婦人会後援で、「境内落葉清掃」が行われました。

寒さが深まるにつれ、落ち葉が降り積もり、場所によると通路と墓地とが見分けられないほど落ち葉の平原と化していました。

仏壮の呼びかけに応じてお集まりいただいた多くの人のご協力をいただき、掃き集められた落ち葉はたちまち山のようになりました。

清掃後は、仏婦の皆さんが心を込めて作った、豚汁、おにぎりをいただき冷えた身体を温めました。

ご協力ありがとうございました。





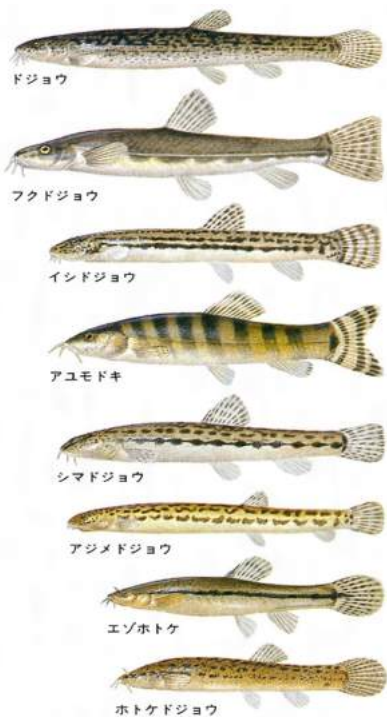
あけし あれこれ どじょう (泥鰌)

♪春になればすがこも解けてどじょっこだのふなっこだの夜が明けたと思うべな♪

まさかドジョウを飼うことになるとは思わなかったのですが、町内のお祭りの余りをいただいてきたそうで、仕方なしに飼うことになりました。遥か昔から自然環境に恵まれた泥田に住んでいて、子供の遊び友達であり、時には食材として身近な生き物でした。今は絶滅危惧種に指定されている程の貴重な存在となってしまったようです。



ドジョウ (泥鰌) コイ目・ドジョウ科・ドジョウ亜科・ドジョウ属
別名、地方名 ドジョンコ、ドンキュウなど



種類はとて多く、日本には、ドジョウ・シマドジョウ・ホトケドジョウ・アユモドキなど約10種がいる。口ひげがあるのが特徴だが、種類によって本数が違うとのこと。夜になるとミジンコなどを食べ、えら呼吸、腸呼吸、皮膚呼吸の3種類の呼吸、をします。日頃はえら呼吸をしています。

お店ののれんや看板には「どぜう」とかくこともあるが、中世後期の文献に「土長」「ドヂヤウ」の表記がみられることから、歴史的仮名遣いは「どぢやう」とされる。

顔を見ていると、何とものん気そうなひょうきんな顔で和んできます。可愛いですね。

